

彙 報

チョローン・ダシダワー博士の訃報
The Obituary of Dr. Chuluun Dashdavaa

岡 洋 樹
(東北大学)

OKA Hiroki
(Tohoku University)

2015年8月19日、モンゴル国の現代史、革命史研究を代表する研究者チョローン・ダシダワー (Чулууны Дашдаваа) 先生がウラーンバートルで逝去された。66歳であった。

ダシダワー先生は1949年1月ウラーンバートル生まれ。ウラーンバートル市内で中等教育を受け、1967年9月にモンゴル国立大学歴史学部に入學、1971年7月の卒業後、モンゴル科学アカデミー歴史研究所副研究員となった。以後1986年まで、先生は同研究所で歴史研究に携わることになる。この間、1978年から82年まで、ソ連科学アカデミー東洋学研究所で大学院課程を修了し、84年に歴史学準博士号を取得している。1987年から1993年まで、モンゴル人民革命党中央委員会附属社会科学研究所歴史部研究員、主任、1993年10月から1996年10月まで国家文書管理局長を務められた。その後、1998年5月から2003年3月まで文化芸術大学社会科学部長として教鞭を執られ、2003年3月から再び歴史研究所に戻り、所長を務めた。2010年からモンゴル国国家安全審議会国家名誉回復業務指導組織委員会附属政治的粛清被害者研究センター長を務め、一党独裁下の粛清被害者の名誉回復事業に貢献している。その後ウラーンバートル大学教授、モンゴル国家文書局顧問の仕事をした。2002年にはモンゴル科学アカデミーで科学博士の称号を授与されている。また教育称号としては1999年に助教授、2005年に教授を得ている。2006年12月から2007年3月末まで外国人研究員(客員教授)として、また2011年8月から2012年6月まで、国際交流基金のフェローとして東北大学東北アジア研究センターに滞在されている。

モンゴルの革命史を中心に多くの業績があり、この分野ではモンゴルばかりでなく、国際的にも第一人者と言ってよい。ダシダワー先生は極めて旺盛な研究者で、社会主義期にもモンゴルの文化史の概説で、先生も執筆陣に加わった『モンゴル人民共和国文化史БНМАУ-ын соёлын түүх』3巻 (Sh.ナツァグドルジ編、1981、1986、1999年)や、『モンゴル人民共和国の文化革命：歴史的経験、現代の問題БНМАУ дахь соёлын хувьсгал: Түүхэн туршлага, орчин үеийн асуудал』(1989年)などがあるが、特にモンゴルで社会主義体制が崩壊して人民革命党の一党独裁が終わり、議会制民主主義、市場経済が導入された1990年代以後、モンゴルやロシアなどの文書館史料を渉猟され、多くの著作を発表された。先生の代表的著作として、モンゴル人民革命党の歴史を再検討した『モンゴル人民革命党概史Монгол Ардын Хувьсгалт Намын түүхэн товчоон』(J.ボルドバートル、L.バトオチル、B.ダシゼヴェグと共著、2001年)、1920~30年代のコミンテルンとモンゴル革命の関係を描いた『赤い歴史(コミンテルンとモンゴル)Улаан түүх. Коминтерн ба Монгол』(2003年)、人民革命へのソ連の関与を論じつつ1928

年の極左政策への転換をコミンテルンによるクーデターとして論じた『モンゴルにおけるクーデター—Монгол дахь төрийн эргэлт』(2008年)、これに続く国内の叛乱などの混乱收拾のためにスターリンが派遣したエリアヴァとその活動に関する論文と史料を収録した『コミンテルンの使者シャルヴァ・エリアヴァКоминтерний элч Шалва Элиава』(2013年)、モンゴル革命における粛清・迫害を論じた『刷新のための運動、歴史的運命Шинэчлэлийн төлөө хөдөлгөөн, түүний хувь заяа』(J.ボルドバートルと共著、2005年)、先生が新聞や学術雑誌に発表された論文・エッセーを集めた論集『歴史・文化・政治Түүх, Соёл, Улс төр』(2005年)、政府庁舎前に立つスフバートル像の歴史を紹介した『スフバートル像の歴史的眞実Сүхбаатарын хөшөөний үнэн түүх』(G.ガントゥムル、Ch.ボルドと共著、2011年)があり、また先生の編になる論文集として、第二次世界大戦期のモンゴルに関する論文集『第二次世界大戦とモンゴルВторая мировая война и Монголия』(B.V.バザロフ、V.Ts.ガンジューロフと共編、2005年)などがある。またモンゴルの近現代史に関わる史料集の編纂にも尽力され、コミンテルンのモンゴル政策に関するモンゴル・ロシア所蔵の文書史料をモンゴル語訳した『コミンテルンとモンゴル(史料集)Коминтерн ба Монгол (Баримтын эмхэтгэл)』(1996年)、ロシア・ポーランドのモンゴル学者ウラディスラフ・コトヴィチに関わる史料集『V.L.コトヴィチ 書簡史料からВ.Л.Котвич. Из эпистолярного наследия』(2011年)、粛清被害者に関する史料集『政治的迫害被害者史料集Улс төрийн хэлмэгдэгсдийн баримт бичгийн товчоон』シリーズなどを刊行されている。

ダシダワー先生の研究テーマの一つに、日本人捕虜の抑留の問題がある。1995年6月、東京の有楽町朝日ホールにおいて朝日新聞社・モンゴル国文書管理局共催の国際シンポジウム「日本・モンゴル 過去から未来へ」が開催された。このシンポジウム第一部のパネル・ディスカッションには、ダシダワー先生の他、文書管理庁事務局長D.バトバヤル氏、モンゴル国立歴史民族学博物館長S.イチンノロブ氏、東京外国語大学の二木博史氏、日本モンゴル協会理事長春日行雄氏がパネラーとして参加された。このシンポジウムは、1991年の民主化後、日本との関係を改善していたモンゴルから、ダシダワー先生が第二次世界大戦後に同国で抑留されていた日本人捕虜関係の資料の写しを将来されたのに伴い開催されたもので、筆者は同時通訳を仰せつかった。捕虜関連資料の提供は、日本とモンゴルの関係改善にとって象徴的な出来事だったように思われる。ただダシダワー氏から伺ったところによれば、彼は帰国後、この件で当局から取り調べを受け、文書管理庁の仕事を解かれたとのことである。

その後もダシダワー先生は日本人捕虜の問題について研究を続け、2013年には、『モンゴルにおける日本人捕虜Японы олзлогдогсод Монголд』(2013年)として研究成果を上梓された。またモンゴルのアルヒーフに保管されている日本人抑留者の映像資料を発掘され、2011～12年の二度目の東北大学滞在中、東京で開催された東北アジア研究センターの公開講演会や成蹊大学の富田武先生が主催されたシベリア抑留研究会の例会で報告された。

モンゴル科学アカデミーと東北大学は、2000年8月、学術交流協定を締結した。ダシダワー先生は、アカデミーの歴史研究所長として、東北大学との学術交流に大きく尽力された。特に東北大学東北アジア研究センターは、この協定に基づいて2003年からほぼ隔年でウランバートルで国際シンポジウムを開催してきたが、その内の三回はダシダワー先生の所長時代に歴史研究所と共催したものである。第一回のシンポジウムは、前任者のアユーダイ・オチル先生をモンゴル側の世話役と

して2003年9月にウランバートルの日本センターで開催されたが、同年3月に所長になっていたダシダワー先生から共催の許可をいただいた。以後、2007年9月『モンゴル史の新動向、当面する課題(17～20世紀初頭)』、2009年9月『モンゴル史研究と史料』(モンゴル科学アカデミー歴史研究所・東北大学東北アジア研究センター・内蒙古師範大学蒙古学学院共催)を開催し、いずれも東北アジア研究センターから報告論文集が刊行されている。アカデミーと東北大学の交流において、ダシダワー先生にはたいへんなご尽力とお世話をいただいた。心から感謝する次第である。

ダシダワー先生が文書管理局長をしておられた1995年、私ははじめてウランバートルの歴史中央アルヒーフで清代文書の調査を行った。その際先生からいただいた暖かなご配慮は、その後の筆者の研究の基礎になった。先生の学恩と、気さくなお人柄を偲びつつ、ご冥福をお祈りする次第である。

